

ほっかいどうの社会保障

2013年10月12日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

在宅生活を奪い、命脅かす大改悪

要支援が保険給付から外された場合予想される被害 道内269名調査



10月10日、「介護される人も、する人もみんな笑顔に！」北海道連絡会は、安倍政権が行おうとしている「要支援1.2」を予防給付から外して市町村独自の地域支援事業への移管によって予想される被害について、調査発表しました。道内の介護事業所を利用している「要支援」の方に当てはめた事例269件をまとめました（対象者の特徴は表の通り）。

ほとんどが、高齢者世帯、病気、認知症

要支援者は、決して「軽度者」ではなく、専門職による介護保険サービスを利用して今の生活を維持しています。独居高齢者のみ世帯（73%）で、何らかの病気を持ち（99%）、68%が認知症もあり、中には、重い病気や認知症の方もいました。低所得の方も少なくありませんでした。

「生きていけない」という声も 重度化・重症化に

利用できなくなると、重度化・重症化を招き、とりわけ、独居の高齢者、低所得の高齢者には厳しい影響を及ぼすことが明らかです。「生きていけない」という声も出されています。要支援者の介護保険外しは人の命に関わる大問題です。

多くの自治体が困惑 地域格差も生じる

多くの自治体から「受け皿を整備することができない」「ボランティアを確保できない」といった困惑の声が聞かれます。財政的な問題と人材確保の困難さから今までの量と質を地域支援事業で実施することが非常に厳しいことや、地域格差が生じることもわかりました。

性別	女性	213名	男性	56名
介護度	要支援1	86名	要支援2	182名
家族状況	独居	166名	老々世帯	50名
経済状況	非課税	82名	生活保護	52名
疾患	有	267名		
認知症	有	183名	自立	85名

「外されると金銭的負担が大きくなる。今までのサービスを利用できなくなると、どうやって生きていけばいいのだろう」

（85歳女性・要支援2）

週1回の訪問介護、週1回のデイサービス、月2回の訪問看護を利用し心臓病・糖尿病・高血圧症の治療を継続しています。時々低血糖を起こして救急搬送されるため、適切な治療と定期的な健康管理が必要。本人の病態観察と身体に負担を取り除く支援で、在宅生活が継続できています。

公的な保育 守るのはいつ？ いままでしょ！！ 宣伝INさっぽろ

10月9日、日中悪天候のため決行できるか悩ましい状況でしたが、夕方にはしっかり天気が回復。

21名が札幌中心街の三越前で、新品の「いまでしょ」横断幕と風船を掲げてアピールしました。

「制度が変わるといまの保育が守れない」「いま保育の現場にはたくさんの非正規労働者がいて、健康で生活することが困難になっている」「消費税増税分を社会保障にまわすといながら社会保障制度が改悪されようとしていることを許してはいけない」「子どもは未来の宝です。そのためにも保育制度を良くしていきたい」などリリーススピーチを響かせ、署名担当者は、歩行者や信号待ちの人びと、乗車待ちのタクシー運転手などにどんでん声をかけ、45分で84筆を集めました。（福祉保育労ニュースより）



19日（土） 安心の医療・介護制度を 宣伝・署名行動
 （12:30～13:30 大通西3丁目）
 公的保育充実もとめる、宣伝・署名 デモ
 （13:30～15:30 大通西3丁目）

